

# 馬場ひでゆきの活動日誌

## No.28

県議会では、知事の議案説明が終わると、議員の代表質問・一般質問が行われます。

ここでは、様々な県政の課題が報告され質疑されます。

私が登壇するのは年に1回だけで、議場ではもっぱら聞き役ですが、他の議員の質問も、なるほどなあと参考になることがたくさんあります。

今回は、6月定例会の議場で出された質疑の内容の一部について報告します。

### ●地域医療再編について

県内どこに住んでいても「命と学びは平等」であるべき。医療関係者の給与が減額されれば、交通の便も悪い山間豪雪地域を希望する医療関係者はいなくなる



## 6月定例会（議会）

# 代表質問 & 一般質問

る。改革は必要だが「角を矯めて牛を殺す」ことにならないよう、むしろ国から診療報酬を上げてもらわなければならない。県立病院の改革は赤字という経営面だけでとらえず、地域の安全・安心な医療を県民に提供するという大局的な観点から検討を進めるべきと考える（自民党・尾身議員）。

### （馬場の感想）

尾身さんは、十日町地域でも地域医療の合理化再編が実行されています。「命と学びは平等」ホントにその通り。

### ●県立中等教育学校の現状

県内6校の県立中等教育学校では、前期課程から後期課程に進む際に辞める生徒の数が増加傾向だ、卒業に至らなかった生徒の割合が令和元年〜同5年度の平均が18・20%になっている、少子化で生徒数が減少する中でこれだけ多くの県立中等教育学校が必要なのか（自民党・小山市議員の質問）。

### （馬場の感想）

中等教育学校って県の目玉政策だったと思いましたが、この現状には正直ビックリしました。

### ●公立学校の教員未配置

今年4月時点の県立公立小中学校の教員の欠員が46名、昨年の4倍超に急増した。今後さらに欠員の拡大が懸念されるが今後の県の対応方針をうかがう（自民党・笠原議員）。

### （馬場の感想）

県は、未配置縮減に向けて、今後講師の任用期間の要件をさらに緩和し、併せて免許保有者の新たな掘り起しに取り組むとの回答でした、しかし、教員志願者は減少傾向、臨時教員のなり手がいないという枯渇状態です。なぜ教育現場

に人が来ないかということ、県教委は真剣に考えてほしい。

### ●原発事故の経済効果は？

4月に柏崎刈羽原発の地域経済等への効果にかかる調査結果を公表したが、事故発生時の経済的損失については言及されていない。過酷事故をいくつかのパターンで想定した上で原子力災害が発生した場合の損失についても試算・調査を行い公表すべきではないか（未来にいがた・土田議員の質問）。

### （馬場の感想）

マイナスの経済効果も、再稼働の判断には必要ですね。

### ●農地の渇水対策について

県は、広域的な渇水時にはポンプ等の貸出・購入の応急支援対策を実施しているが、電気料金等の補助についても支援するべきでは（自民党・尾身議員）。

### （馬場の感想）

現場を歩いてこそその質問、そうでないとなかなか電気代まで気づかない。

## 今後の議会内容の掲載予定

6月25日	火	本会議(開会)/連合委員会	今回28号で掲載
6月27日	木	本会議 代表質問	同上
6月28日	金	本会議 一般質問	同上
7月1日	月	本会議 一般質問	同上
7月2日	火	常任委員会	次回29号で掲載予定
7月3日	水	常任委員会	同上
7月4日	木	常任委員会	同上
7月9日	火	連合委員会	次々回30号で掲載予定
7月12日	金	常任委員会 採決	同上
7月16日	水	本会議 採決 閉会	同上

# おめでとう！ 上越民主商工会第60回総会

7月7日、上越民主商工会の定期総会に招かれました。会長から、民商運動の参考になる話をしてほしいと言われたので話しました。概要は左のとおりです。

●**日栄・商工ファンドの時代**  
私が弁護士駆け出しの頃、日栄・商工ファンドの相談が毎日のようにありました。

日栄・商工ファンドは、商工業者を対象としたノンバンクでした。高利ですが、依頼するとすぐに資金を貸してくれたため、全国で多くの中小業者が利用していました。

しかし、支払いが滞ると容赦なく業者を倒産に追い込み、保証人に対して資産を差し押さえるなどして回収をするという強引な営業をしていました。

業者は追い込まれ、中には自殺未遂をされた方もいました。私は、上越民商の当時の松野事務局長に連れられて、業者のお宅を訪問し、業者の家族、保証人になってしまった親戚や友人をみんな集めて会議をし、返済方法などの解決策を話し合いました。

だから、私にとって上越民商は「生きた現場の学校」でした、とても感謝しています。

●**民商の魅力は相互扶助**  
こういう活動をしましたので、私の目に映る民商は、困っている業者がいたら仲間が扶けてくれるという、中小零細業者にとってはありがたい存在です。

他の商工団体は、あそこまで体を張って頑張ることはしませんでした。だから、民商の意義が、相互扶助、行政や税務署からの独立した業者団体ということなどをしっかり位置付けて、それを継続的に広報していくことが大事と考えます。

●**ローカルな目標で楽しく活動**  
それから、業者のお客さんは、地域の住民の皆さんです。だから、ローカルな目標を持つことも重要です。

たとえば、上越民商が実施した「高田夜の街オリエンテーリング」は地元の高田を活性化するという明確な目的があり、夜の街を探検するみたいな企画で魅力的だし、誰もが協力できるステキな企画でした。こういうことを継続して活動

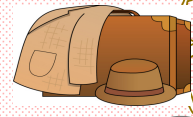
**コーシー Break**

「新潟豪雨の記憶」  
平成10年8月4日未明より、新潟県の下越地方では、非常に激しい雨が降り、新潟市では24時間降水量265ミリを観測、市内各所では浸水被害が相次ぎ、市内主要道路も広範囲に渡り冠水し、都市機能が完全に麻痺しました。越後線の小針駅 - 寺尾駅間で線路路盤の一部が流出して不通になりました。

私は、当時、弁護士1年目、昭和大橋の近くの上所のアパートに住んでました。その朝は、たまたま福井に行く用がありました。とりあえず新潟駅に車で向かったのですが、新潟駅南口手前の交差点付近まで行って見たはものの、近辺はでっかいため池のような状態で、水かさは50cmくらいになり、車は前に動くこともできませんでした。

怖くて近くの銀行の駐車場に車を停めていたが、雨の音は激しさを増し、水かさはどんどん上がっていく、そこに留まるべきか、車を移動させて引き返すべきか、どちらも危ないんじゃないか、ホントに迷いました。

激しい雨音を聞くと、今でもこの時の怖さを思い起こします。




していけば道は必ず切り開けるはず、ともに頑張りましょう！

●**高士地区敬老会**  
7月7日、高士小学校体育館にて開催。高士地区婦人会が主催、高士地区の75歳以上の高齢者の方約50名が参加され、長寿を祝い喜びました。それにしても暑かったですね！

●**伝統文化親子茶道教室七夕茶会**  
7月7日、「上越に伝統文化を普及する会」（代表稲葉摩利子さん）の主催。友人に誘われて参加。茶道を習っている子どもさんたちがお手前を披露してくださいました。

●**保倉川放水路建設促進期成同盟会**  
7月8日に開催。保倉川下流域は過去に何度も大きな水害が発生、放水路の整備が急務です。

●**黒井藤野新田線建設促進期成同盟会総会**  
7月10日に開催。黒井藤野新田線は直江津港から保倉川を渡り、国道253号を経て三田新田で国道18号に接続する道路。国道18号の混雑緩和、直江津港からの輸送の円滑化などを目的とした都市計画道路です。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所  
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号  
ダイアパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110  
ファックス 025-546-7666  
メール kengi-bahahideyuki@windoon.ne.jp